

## 平成 29 年度第 5 回天守復興部会会議録

日時：平成 30 年 1 月 15 日（月）14：00～16：15

会場：熊本市教育センター4 階大研修室

出席委員：伊東（龍）委員、今村委員、谷崎委員、富田委員、西村委員、西嶋委員、毛利委員

（オブザーバー）平井委員長、熊本県文化課長谷部主幹・角田指導主事

熊本城総合事務所：津曲所長、野本副所長、濱田副所長、古賀技術主幹

熊本城調査研究センター：網田副所長、美濃口主幹兼主査 他

### 1 開会

### 2 熊本城総合事務所長 挨拶

津曲所長	熊本城総合事務所の津曲でございます。天守復興部会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方にはお忙しい中、ご出席を頂きありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。本日の部会は、4月・6月・8月・10月に引き続き、第5回目となります。過去4回の部会におきましては、委員の皆様より、様々なご意見をいただき、随時「基本設計」の図面にも反映させてまいりました。本日も、視覚的にわかりやすい「イメージパース」を使って説明をさせていただき、来月中には「展示・内装」の基本設計を終えることとしております。最後まで活発なご議論をお願いいたします。今回は、展示に関する「最終報告」ということとなります。事務局にて、これまでの審議内容・承認事項を振り返った資料も作成いたしました。内容を整理・確認していただき、委員の皆様のご意見を「部会の総意」という形で、まとめていただければと思います。なお、本日は「その他」にて、「熊本城復旧基本計画」についても説明させていただきます。どうか本日はよろしく願いいたします。
------	--

### 3 審議事項

#### 1) 熊本城天守閣復旧整備事業について

・（資料1）に基づき事務局より説明

伊東部会長	前回のご意見に対する対応は、これから資料でご説明いただくということです。工事状況や今後の予定というところで何かあれば。
	（質疑・意見なし）

2) これまでの審議内容・承認事項について

・(資料2)に基づき事務局より説明

伊東部会長	今まで何をやってきたのかを整理いただき、今日何をやらないといけないかということで、赤字の済がない所を今日決めなければならないというご案内でした。よろしいでしょうか。
	(質疑・意見なし)

3) 各階平面図・パース・動線計画・「上段の間模型」再利用案

・(資料3・5・6)に基づき事務局より説明

伊東部会長	地階については次の話題になりますが、石垣とダンパーの見え方と若干関わるので、まず1階から6階までについてご意見ございますでしょうか。
西嶋委員	資料5-10にアプリを活用するという説明があったが、アプリというのはどういったものか。熊本城を再建していくうえで、こういうものの導入は非常に重要、かつ大きな効果を与える。インバウンド対応という時代にさしかかっている。
事務局	資料2をご覧ください。前回の第4回部会でも、参考事例として他の城郭などのAR・VRの類例をお配りしたが、一番イメージが近いのは姫路城の例。スマホでダウンロードして解説を手に入れることができるといったもので、そういったイメージで天守閣6階においては、各方向の展望に対して、現代の風景を見下ろすのと同時に、各方向、同じ目線から古写真が撮影されているので、そういった情報を付加できるアプリを考えているところ。もちろん汎用性というところからも、単に天守の中だけの情報提供ではなく、今後は周辺、お城全体も含めて公開・活用の協議が必要と思う。そういった中で、もし拡大するのであれば、同じような手法でできないか等、プロの業者と打ち合わせしながら、知恵も拝借しながら、手法については具体的に今から考えていくところ。
谷崎委員	5階の休憩エリアについて。色んな城郭をまわって一番上の方まで行くご高齢の方が居られたりして、休憩の場所が一番必要になってくるかなと思っていただくと5階が休憩エリアとしてご紹介があったが、資料3-6でいくと、椅子の部分というのは茶色の部分か。
事務局	ベンチが茶色の部分。
谷崎委員	開口部との関係もあるだろうが、ベンチはここにしか置けない状況か。それとも、もう少し置けるのであれば考慮していただき、できるだけ多くの方が座れる空間を作っていただいた方がいい。
事務局	5階だけではなく、各階にベンチの表示はそれぞれ入れている。どのフロアについても、疲れた方には休憩していただけるようなスペースを図の中

	に落としこんでいるところ。5階をもう少し拡大した方がよいということでしょうか。
谷崎委員	城の一番上まで上っていくので、上の方でお年寄りが疲れているというのは散見される。どこに座りようもないということで床に座っていらっしやった記憶もある。名古屋城だったと思うが。上の方にベンチがあった方がいいという意見です。
事務局	支障のない範囲で、可能なところに設置するようにする。車椅子の通り抜けや通路の幅などの制約もあるので、その辺を勘案しながら反映させたい。
永田委員	大変盛り沢山で、じっくり見るのにどれくらい時間がかかるのかなど、何回くらい行かなくちゃいけないのかなということを思う。今までの天守閣の平均的な滞在時間と比べて、今回すごく盛り沢山になった気がするが、時間的にどれくらいを考えているのか。
事務局	時間的には人それぞれ。観光バスなどでいらっしやる方は解散時間・集合時間の間で調整されていたと思う。2時間と言われれば、2時間でバスまで戻ってくるというような。天守閣全体としても、長くても1時間程度。その辺の調整については、以前、平井委員長からご指摘があったように、よくある博物館のように一筆書きで絶対そこを通過しないと次の展示室に行けないような動線ではなく、極端な話西南戦争にしか興味のない方は3階だけ回って降りてしまうような見学の仕方もあるので、各フロアの案内を出して、興味のある所をしっかりと見ていただくような工夫は考えたい。
永田委員	是非、事前に予習ができるというか、SNSや熊本城に関するいろいろなパンフレットでもいいが、どのフロアにどういうものがあるというものなど、お考えいただければありがたい。
平井委員長	この展示は昇りながら見て欲しいと考えているのか。
事務局	お客様の自由。逆走することもできる。最初に展望をご覧になって、降りながら、時系列でいうと逆走するような見学の仕方もある。
平井委員長	ここで描かれている矢印は昇りながら見るものになっていますね。
事務局	矢印はあくまで展示の順番を規定するものではなく、動線計画というところで、車椅子の人と一般の人の通らぬ道の検証のために入れているもの。目安として、普通はこういう順番だと思っていただければ。
平井委員長	下りながら見ると、階段に入るところで交差してしまいますよね。
事務局	今までと違い、手すりの縛りがないので、出入りはしやすくなる。今までのはくぐったりしなければならなかったが。
平井委員長	その辺がちょっと気になる所。そのほかは展示の問題ではないが、5階でエレベーターが変わると、エレベーターのスペースがなぜ上に1階だけしか上がらないエレベーターの方が大きくなるのかが分からない。

事務局	資料 3-6 を見ていただくと、1 階だけ昇るエレベーターの方が範囲としては広いが、それはエレベーターの昇降の方式が違うため。1 階から 5 階まで昇るエレベーターはロープ式を採用している。しかし、5 階から 6 階で同じロープ式を使うと、5 階部分、エレベーターの下に機械室部分を広くとらないといけなくなる。しかし、5 階のお客様のスペースを考えて、水圧式を 5 階から 6 階に採用し、その部分を少なくとるということにしている。その分、横方向にスペースが必要ということで、こういう風になっている。
平井委員長	広く使う形は下の方ではできるのか。
事務局	地下 1 階部分に降りないので、通常の機械室として天井が低くても大丈夫な場所になっているため、ロープ式が使える。
今村委員	3 階展示の鯨瓦は小天守の 1 階にあった鯨瓦を使うのか、それとも新たに作ったものを展示するのか。
事務局	かつて展示されていた鯨瓦をもう一度使う予定。
毛利委員	3 点、展示の方法と全体の外観のことについてお聞きしたい。まず、資料 5-7 の 3 階部分、西南戦争の展示の部分で、洋学校・医学校等の展示をすると話があった。西南戦争では、ここに征討軍の本営が置かれたということもあるので、西南戦争の中で、その本営で歴史的なストーリーや物語がある。例えば博愛社の日赤につながる設立が行なわれた。ここでしか見せることがないと思うので、現在展示の中で検討していただいているのかどうかは 1 点。2 つ目は、資料 5-5、2 階の展示のところ。2 階の展示は城郭と城下町の模型で、前回も意見として出していて、ここにも意見のことは書いてあるが、惣構の城下町、城門・土塁はきれいに塗り直すということが書いてある。この城下町の模型はひと目で、城下町はお城と直結して、惣構の中だと分かるようになっていっているかどうかをお答えいただきたい。3 点目は、資料 5-2 と資料 6。資料 5-2 は軸組の絵が載っていて、資料 6 は右上に天守の写真が載っている。すべての天守の工事が終わった後、完成した後の大小天守の外装、外から見たイメージや出来上がり図は、今まで示してあるか。あるいは、どこかにあったら見せていただきたい。
事務局	まず資料 5-7 の部分からお答えさせていただきます。ご意見でいただいたように、西南戦争の本営が置かれていたというストーリーや博愛社が起こったというストーリーは、現在西南戦争に関する展示に盛り込む予定。資料 5-5 の城郭城下模型のご質問について、土塁や城門を塗り直すという点については、全体的に色もあせており、樹木や土塁、建物についても全体的にクリーニングが必要になるので、その中で綺麗に塗り直しもしていきたい。惣構が分かるような形で模型ができるのかというお尋ねかと思うが、

	高麗門までは現在の模型で作られている。その南の方が少し足りない状況なので、新三丁目御門まで追加で製作することで検討しているところ。また、軸組模型について、この部分は江戸時代の天守についての説明ということで、軸組模型を中心として、外観については古写真であるとか、江戸時代のものを用いて外観を説明するという。今の天守閣の外観について最終的に出来上がった状態をどう見せるのかというのは、上の階、資料 3-5 の 4 階の「熊本地震 よみがえる熊本城」の部分で扱うことになるかと思う。
毛利委員	この中で展示するのではなくて、出来上がりがこういう外観になる、今までと全く同じ、あるいは少し外観が変わったようなイメージになる、という全体的な外観を、私たち委員に見せていただきたいということです。
事務局	基本的には今回の地震の災害復旧という形で考えている。昭和 35 年に再建された当時の姿そのままに復旧していくということになる。
毛利委員	外観の色合いが少し変わるといことがあったら困ると思ったので、地震前の姿に戻すということであれば、私はそれで理解する。
谷崎委員	資料 2 の縦番号 13 番、ここには「細川時代の河川改修解説模型」と書いてあるが、資料 5-4 は「加藤時代の河川改修解説模型」と書いてある。これは加藤時代の間違いではないかと。
事務局	申し訳ございません。資料 2 の方が間違いで、細川時代ではなく加藤時代の河川改修模型ということになります。
伊東部会長	最上階の 1/3 模型ですが、史料上「御上段」と出てくるとのことだが、部屋で言うときは「御上段の間」と言うのか。
事務局	史料上は「御上段」と出てくる。今、分かりやすいように「上段の間」と呼んでしまっているが、正式にどう呼ぶかはまたご相談させていただければ。
伊東部会長	後々、残ってしまうよりはいいかと思い、展示とあまり関係はありませんが申上げました。
西村委員	西南の役が終わって終戦となるまでの間、陸軍がずっと管理をするが、その間約 70 年ある。熊本は大軍都として大きく発展し、それは熊本城を中心として発展した。その発展の過程、軍政時代の資料が少ないように感じる。第六師団の本部が熊本城にあって、城下に練兵場があり、あるいは砲兵・野砲・騎馬隊が熊本市全体に広がっている。それで、熊本市が大熊本市と呼ばれる所以になったわけだが、その絡みの歴史的資料、熊本城が果たしてきた明治以降の発展した過程が全くわずかしか展示されないのではないかと懸念している。大熊本市の中の熊本城を中心として、どこが練兵場だった、どこが騎馬隊だった、砲兵隊だった、13 連隊はここにあったと、そ

	<p>ういうことで熊本市が衣食住・観光に関わって交通網も発展して大熊本市になった経緯があるので、その辺の地図一枚でも展示していただければ、軍政時代の発展の過程がよく分かるものと思う。できるだけ、地図一枚でも残していただければありがたい。もう一つは、小学生が未来の熊本城を保存し活用し、将来は若者が我々の次の時代が育っていくわけだが、その子どもたちのために、学校教育の分野でもありましょうが、天守閣の展示を活用してもらいたい。若者の教育の一環として小学校も見学に来るだろうが、低学年に分かりやすい、できるだけひらがなを漢字の横につけていただければ、小学校1年生あるいは3年生、低学年の方には特に理解しやすいのではと思う。教育の場として、将来を背負っていくであろう若者を育てるということも、天守閣の大きな役目と思っているので、是非そのお願いをご理解いただいて、できるだけそういう方向にさせていただきたい。</p>
事務局	<p>軍都としての熊本城の関連の部分が確かに非常に少なく、ここに関しては極力映像資料の中に古写真や古地図、そして軍施設がこういう風に徐々に広がっていったというのが明治から大正・昭和にかけての地図で非常に分かりやすく見ることができるので、是非とも映像に盛り込んでいきたい。後半の、解説の学年や対象については、本日参考資料として後ほど用意しているので、そちらで詳しく触れたい。</p>
伊東部会長	<p>次に、地階穴蔵における石垣とダンパーの見え方について、地階の穴蔵においては石垣が重要な展示物で、これを是非見ていただきたいということもあるので、これも説明いただいた上で地階の話にいきたいと思います。</p>

#### 4) 地階：穴蔵における石垣とダンパーの見え方について

・資料4に基づいて事務局より説明

伊東部会長	<p>小天守と大天守を比べても見え方が随分違って、大天守のほうでは必然的に部屋が出来る関係で、内部の穴蔵の石垣が見えない部分が多いということだった。小天守の方では見せられる部分を見せようという説明だった。展示空間ということで、先ほどの説明の通り床に竈の表示をすとか、床の表示をする、或いは大型スクリーンをかけるということで、そういったものが入ってくると先ほどの資料 5-1 のようになっていくということですね。その辺、中に人が居たり展示物や内装がきちんとした時には、ダンパーの見え方も当然変わってくるということもお考えいただきながら、ご意見を頂戴できれば。</p> <p>石垣、穴蔵の内部を見せられる部分が本物の文化財であるということなので、見せるという大方針は前回同意していただいたかと思う。よろしいでしょうか。</p>
-------	---

	(質疑・意見なし)
伊東部会長	それではご承認いただいたということで、今回の案、石垣も見せる、ダンパーも見せるというやり方で行きたいと思います。

5) 映像コンテンツ案・地階：大型スクリーンコンテンツ案について

・(資料7)に基づき事務局より説明

平井委員長	1分でも、必ず1分間は滞る。金沢で五十間長屋の中にスクリーンを作っている。梁の上に行くつも同じスクリーンがあって、同じものを流しているのだから歩きながら見て行けば、次のスクリーンで次の映像が見えるのだが、絶対にそうならなくて、映しだすと必ず人はそこで止まってしまう。
西嶋委員	地震があって、この天守閣が復旧して中に入れる状態になるので、待ちわびている方もいらっしゃるだろうし、後でお尋ねしようと思うが、いつからどういう形で一般の方が展覧できるのかということも非常に関わってくる。導入部分なので、運用上、状況を見て、ある程度幅を持たせて対応していくという展示の場所や方法というもの、長い時間をこれから経過していく訳なので、そういう位置づけもあっていい。そういう意味ではここが該当する所なのかと思う。
伊東部会長	西嶋委員のお話というのは、一応施設としては作っておいて、それをどういう風に使うかというのは少しじっくり様子を見ながら考えてもいいのではというご提案ですね。また後で、審議を進めながら最後にご意見があれば伺います。

6) 事例紹介 サイン・解説の対象について

7) 事例紹介 内装・デザインについて

・(参考資料1・2)に基づき事務局より説明

谷崎委員	資料1で説明されたルビの考え方の部分は、サイン計画の中には特に触れられていないが、どのような考え方を持っているのか。先ほど小田原城の説明があった。それから姫路城も設定がある。うちの方のサイン計画の中にはルビについては特に考え方が示されていないが、参考となる部分でルビの考え方は書いてあるのに、うちのサイン計画の中にはないというのはどういうことか。
事務局	ルビについては、基本的には2回目の部会での周辺施設とのすみ分けにおいて、小中学生についてはまず湧々座に行ってもらって体験しながら楽しんでもらうという考えでいる。天守閣については、内部で検討する中では中学生レベルで展示は示してはどうかというところで、今回参考資料として付かせていただいている。

	<p>先ほど口頭で説明した中では、小田原城の例が近いと熊本城でも考えている。メインのタイトルにくるような見出しの所と、本文で何行も書いている中に全部ルビが付いてまわるといえるのでは、同じレベルではできないと思っている。メインタイトルに来るような所だと、例えば中学生以上の漢字についてはふるとか、より細かい一つ一つの資料キャプションについては高校生以上の漢字にふるといった区別で考えることになるかと思う。まだパネルの本文自体を今書き出している訳ではないので、実際にどの漢字にふるかなど具体化してはいない。あまり対象学年を下げるとルビだらけになってしまう。メインテーマの所と、本文とキャプションでは少し分ける必要があると考えている。近いのが小田原城の例になるかと思う。</p>
伊東部会長	<p>大型スクリーンのコンテンツ案について、確認させていただきたい。平井委員長から、そこに入った所でスクリーンがあれば人が滞ってしまうというような問題がある。それに対して西嶋委員から、運用上その辺の様子を見て対応していくというやり方もあるのではないかとご提案を頂いた。私自身は今回の提案で、昭和 35 年の建設時の写真なども魅力的だったし、禁止事項等も必要な事項もあるのかもしれないので、運用上の様子を見てというのも確かに良いご提案だと思う。オープンしたばかりの時は確かに混み合っ、どうしようもない状態になって、スクリーンを見るどころではないのかもしれないくらい混むかもしれない。そこで人が溜まってしまっはしょうがないということなので、一応ここでは大型スクリーンのコンテンツ案は、スクリーンを設けることについては、設けてはいかかかなと思う。内容については、今回のような案も含めて少し練っていただく。昭和 35 年の建設時の写真も大変魅力的な案だと思いますが、いかがでしょうか。</p>
	(了承)
伊東部会長	<p>スクリーンを設けることについてはお認めいただいた。昭和 35 年のご提案のような案もいと頷いてくださる委員の方もおいでになるので、それを中心にまた少し練ってもらう点では、他のコンテンツや展示と一緒にしようかと思う。</p>

#### 4 総括

伊東部会長	<p>3) 各階平面図・パース・動線計画・再利用案など、展示のことについて新たにご検討いただいた結果をご説明いただき、委員の先生方からもご質問も沢山出た。更にご検討いただくというようなことで意見として出たものは、谷崎委員から 5 階の休憩エリアについて、ベンチももう少し増やせるならば増やして、各階でも高齢者の方に配慮していただいてもいいのでは</p>
-------	--

	<p>というご意見があった。まったくその通りだなと思う。永田委員からは、熊本城について勉強できるようなものを発信してはどうか、予習してお城に来られるようなものを考えて頂いたらどうかというご提案もあった。西村委員から、軍都の部分をもう少し盛り込んでどうか、小学生に対しても展示を分かりやすくしてはどうかということで、ご検討いただけるというご回答も頂いた。大きな問題としては地階のダンパーの所だが、地階に関しては、石垣とダンパーを見せるという案でよいだろうということになった。大型スクリーンの設置についても、設置するのはよかろう、内容についてはもう少しご検討いただくということであった。</p>
--	---

## 5 その他（連絡事項）

- ・熊本城復旧基本計画及び今後の予定について、事務局より説明

西嶋委員	復旧基本計画の資料 6 ページの一番最後に、日曜祝日は天守閣の中まで入れるようになるかと表現してあるが、平日も土曜も、天守閣の中に入れるようになるのはいつからか。
事務局	2021 年春頃には平日も入れるようになる。日曜祝日は、というのは仮設の工事用スロープを通ってということで、その前に見学用通路というのを設置予定なので、そちらの方から。日曜と工事のない祝日というのは、工事用仮設スロープが通れる日という意味。
西嶋委員	いつから天守閣の中に入れるという風になるのか。
事務局	2021 年春頃から入れる予定。
事務局	4 ページの本文の方では、「2 復興のシンボル『天守閣』の早期復旧」という中で、(1) の最後のところにある「2021 年春頃の天守閣全体の復旧完了を目指します」ということは、中には入れるということ。ただ、その経路が仮設の見学通路ができれば、そちらから回り込んで見えるが、日祝日しか工事が休みでないため、工事用のスロープを使うのは日祝日に限るということで、いずれにしても 2021 年の春には天守閣の中にお入りいただくことは出来るようになる。
西嶋委員	この資料で見ると、白いところを歩いて行けるということか。平日はどこを歩いて天守閣までアクセスできるのか。
事務局	平日は 2019 年から 2020 年度にかけて、上の地図の見学通路（仮設）というのがあり、平日はそこを歩いて、そこを戻っていただくことにはなるが、天守閣の前まで行くことができる。5 ページを見ていただけますでしょうか。仮設見学通路について説明が漏れておりましてすみません。真中のほうに断面図のようなものがありますが、それを現在の予定で奉行丸の東側、西櫓門の所に設置し、飯田丸を歩いて東竹の丸から本丸御殿の南側の所ま

	<p>で段々に上がって行って、仮設の見学通路を設置したいと。それは平日であろうと日曜日であろうと、見学者については安全と工事のスピードを緩めることなく、立体交差といいますか、見学者は上を行き、工事車両は下に行くということで、これは常に平日も日曜祝日も通ることができる。また工事用のスロープがあるので、日曜祝日に限ってはそちらを通れば周遊のように、回って出ることにも可能と考えている。</p>
西嶋委員	<p>利用者の側に立って、どういう風に天守閣の中に入れるかというのを確認したかったのでお尋ねしました。</p>
谷崎委員	<p>行幸坂はいつ通れるようになるのか。 6～7 ページにかけて、行幸坂が全部ピンク色に塗られている。最後の最後まで色が消えないが、行幸坂は工事が完了するまで開放されない状況で続いていくということか。前回、活用委員会の中でもあったが、国立病院の経路として緊急車両についてはガードを取るという話だった。今後行幸坂、監物台から下までの開通というのは最後まで見込めないということか。</p>
事務局	<p>頬当御門のところに仮設のスロープを設置しており、工事用の仮設スロープ自体が撤去しないと行幸坂から加藤神社の方へは抜けられない、車両は通れないということにはなる。</p>
事務局	<p>補足をさせていただきます。行幸坂の再活用については、庁内内部でも検討を進めないといけないということで、今行幸坂は工事車両だけが真中を通っている。両サイドが非常に危ない状況にあり、滑り崩れる状況にあるかもしれないというところ。その調査等もできていないので、まず調査をさせていただきたい。調査をし、両サイドの安全が確保できると相互通行ができるようになるので、工事車両以外のものも通ることが出来る可能性が高まってくるが、その辺がまだ何も検討が進んでいないため、今の時点で行幸坂をいつ通せるのか、どういう状況になるのかという答えが出せていない状況。活用については、今後検討を早急に進めていく必要があるだろうという議論は今進めているというところ。</p>
西嶋委員	<p>3 月に本委員会が開かれるということで、私も以前から早く本委員会を開催してくださいという風に事務局をお願いをしているが、今日ご説明いただいた復旧計画の上位計画ですよね。保存活用計画というのは。上位計画を検討している保存活用検討委員会には、当然この復旧基本計画の説明はきちんとあるはずですよ。パブコメをするので、パブコメとして委員も意見を出してくれというのが、暮れに部会のメンバーだけに送って来ていましたけど、それはやり方としておかしいんじゃないですかね。ちゃんと委員会に対して、こういう手順で進めたいという説明があるべきだし、委員会に対して委員長も含めてそういう風にご説明があるべきで、部会のメ</p>

	ンバーだけに何かあったらパブコメに出してくださいと、後は部会長と協議して作っちゃいますという風な説明がしてある訳ですよ。何のために本委員会があって、本委員会でやるのがこの復旧基本計画の上位計画になっているのかが全く理解ができないので、そういったちぐはぐなことが無いように、今後運営をして頂きたいと思います。
平井委員長	今のお話ですけれど、私の所にはこういうことをやりますというのは一言も来ていないんですね。というのが、私は大変問題だとは思っております。それが一つと、もう一つは今説明していただいた中の3ページの所に、横棒のグラフがあります。端のところには二つ短冊みたいなものが付いているのと、付いていないものと、片方に付いているものと3通りあるのですが、これはどういう風に区別するのでしょうか。この短冊形は何を意味しているのですか。
事務局	これは復旧の手順と期間で、エリアをまず5つに分けており、そのエリアから各工事にかかる期間を示させていただいております。例えば、飯田丸エリアでは、ここを通って一番奥にあります不開門から平櫓、手前の方に戻りまして石門の工事をしていく。また、天守閣エリアについては現在天守閣をやっておりますけれども、宇土櫓・長局櫓・本丸御殿大広間などが終わってから仮設のスロープを撤去しまして、頬当御門が最後の工事となると。その日程を計算しますと20年かかってしまうというような工事日程でございます。
平井委員長	私の質問とは全く関係ないご回答をいただいたんですが。
事務局	平井委員長の仰っていらっしゃるの、例えば竹の丸の所を含めまして両サイドに小さい四角が二つくらいあるので、なぜこれがあるものかないものがあるのかという事でしたね。まず、「26 天守閣」の所は確実にこの年度には終わるということが見えておりますので、両サイドに小さな四角がありません。小さな四角は石垣の復旧によっては、ここで終わるか終わらないかが分からないものにつきましては、こういった表現をさせて頂いております。確実に終わるものにつきましては、こういった表現をしていないという所でございます。ですので、両サイドにあるものは、開始時期についても少しぐらぐらしているものであるという風に受け取ってもらえればという所です。
平井委員長	28年度という所にもありますよね。これは当然分かっている、始まっている訳ですよ。
事務局	大変申し訳ございません。28年度についてはこういった表現があること自体がおかしいというご指摘の通りかと思っております。再度、事務局の方でも今のご意見を頂きまして、最終確認をさせて頂くということでご了承いただ

	ければと思います。
平井委員長	表紙に30年3月となっているが、まだこれから直せるのか。
事務局	今パブコメもやっているところですので。この概要版と、本編両方でパブコメをかけさせていただいております。
平井委員長	30年3月というのが配られているのですね。
事務局	(素案)としてございますので、3月に出来上がる予定というところの素案を概要版として出しているという意味です。
平井委員長	これはどう見ても3月に出来ている概要版ですよ、という風にしか読めませんよね。
事務局	表紙につきましても、3月には出来上がるというところで、この書き方でかけさせて頂いております、最終的には意見を踏まえて修正が終わりますと、この(素案)というのが取れて計画になるという流れです。
平井委員長	素案は1月にしないと、配るときにおかしいですよ。
事務局	その時点での素案でしょうということですね。
平井委員長	3月に素案のままだと困る訳でしょう。
事務局	案が取れてしまわないと困ります。
平井委員長	ここは1月じゃなきゃおかしい訳ですよ。
事務局	1月時点の素案でしょうということですね。
平井委員長	3月というので配られるというのは不思議な話。しかも、これは親委員会にかかっていない案が外に出ている訳ですよ。
事務局	こちらにつきましては、策定委員会の方で策定をするという位置づけの計画であると事務局としては考えておまして、策定委員会の方ではご了承いただいたものを今パブコメにかけさせて頂いております。
平井委員長	先ほど一緒に配られたという紙を見せて頂いたのですが。
西嶋委員	それはこちら(保存活用計画)の方が委員会にかけられていないということも含めて。
平井委員長	計画策定部会長のところだけの了解でこれは作りましたという風に書かれているのがおかしいのではないかと。
事務局	保存活用計画と復旧基本計画は一緒にお送りさせていただいた時の頭紙ということですかね。
事務局	文化振興課でございます。課長が今日所用で欠席しておりますので、代わりに説明させていただきます。復旧基本計画のことではなくて、保存活用計画の改訂案の件かと思っておりますけれど、保存活用計画の改訂案につきましては昨年度3月に取りまとめが終わっております、ただし復旧基本計画の上位計画という位置づけの中で、その計画との整合性をはかった上で、

	<p>内容につきましては今村部会長と協議を行なって最終的な改訂を目指すというところで、昨年度親委員会の中でもご説明をしてあったかと思えます。今回、復旧基本計画素案ができましたので、その整合性をとって一部修正をさせていただいたものにつきまして、パブコメをかけさせていただくということと、委員の皆さまにもご説明をして、量的にもそれほど多い修正ではございませんので、わざわざお越しいただくというのもご足労をおかけするというのもございますので、文書で意見を頂くということとさせて頂きました。ただ、平井委員長にお送りをしていなかったのは大変申し訳なく思っております。それに関しては、早急にお届けさせていただければと思っております。</p>
平井委員長	<p>私の所に来ないだけじゃなくて、来た文面を見せていただいたところでは、部会長の了解の上でこれをやりましたと書いてあって、委員長には関係ないという風に書いてありますね。</p>
事務局	<p>記載自体が今年の3月で取りまとめ、一回は出来上がったというもので、その一部修正だけは部会長との協議の中で修正するという事で決めさせて頂いたというところです。本来であれば部会長だけでなく委員長にもご理解いただいて、ご説明する必要があったんですけども。失礼いたしました。</p>
平井委員長	<p>それに対するコメントも、計画策定部会の委員の方には欲しいと書いてあるんですけど、委員長には欲しいということはないんです。</p>
事務局	<p>平井委員長にお届けしていなかったのは我々のミスでした。急ぎお渡しさせて頂いて、ご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
西嶋委員	<p>行き違いとか誤解を避けるために、ちゃんと本委員会を開いてください。本委員会を開いた上で、説明をしてください。その辺の説明責任とか段取りとかがおかしいですよ。今日も最後の説明があって、質問もなしにすぐに切ろうとしましたよね。いつもこの委員会はそうですよね。非常に重要な基本計画の説明があっているのに、もう終わりますでしょう。そういう委員会の開き方は、ここは多いですよ。それから、委員の名簿をちゃんと付けてください。我々は責任ある立場で、お前が行ってこいということで委員として来ている訳です。そういう名簿もきちんと付けていない。もうちょっと委員会運営を、こういう混乱を招かないように、本件に関しては文化振興課の方かもしれませんが、きちんとして頂きたいと思えます。</p>
毛利委員	<p>意見は同感です。</p>
事務局	<p>総合事務所所長の津曲でございます。今までもご指摘を頂いたところで、再度しているような所もございますけれども、今後そういうことのないよ</p>

<p>うに、気を引き締めて参りますし、まだまだ審議が今回だけで終わる訳ではございませんし、引き続き来年度以降もごございますので、どうかよろしくをお願いいたします。また、色々ご指摘いただいた点については、私どもの方で情報共有しながら、十分な対応をして参るつもりです。どうかよろしくをお願いいたします。</p>
---

## 6 閉会